

◆TOPICS

飼料作物研修会

農研機構東北農研では、岩手県における飼料作物の生産性向上のために、北海道における牧草栽培技術のトレンドの紹介と東北地域に適した牧草新品種の情報を岩手県の畜産関係者に紹介することを目的として、雪印種苗株式会社とともに畜産指導者向けの「飼料作物研修会」を令和元年11月1日に開催しました。

研修会には、岩手県の普及センターや家畜改良センター岩手牧場の関係者など総勢21名が参加しました。研修会では、雪印種苗の佐藤主査、谷津グループリーダー、農研機構東北農研の藤森グループ長、久保田主任研究員、藤竿研究員より話題提供が行われました。飼料作物栽培において問題となっている雑草の種類や対策方法、排水不良地等で問題となる雑草のひとつであるカヤツリグサの穂に寄生する麦角菌による家畜のアルカロイド中毒の発生、岩手県における牧草の品種選定の考え方や収穫スケジュール、普及を進めている越夏性（暑さに強い）と

圃場での収量性に優れるペレニアルライグラス「夏ごしべレ」、省力的・多収でバイオマス利用も可能なオギススキ（オギとススキの雑種）、積雪地域で問題となる雪腐病にかかりにくいイタリアンライグラス「クワトロ-TK5」の利用方法、家畜の高栄養自給飼料としても重要なトウモロコシにおける施肥管理の現状と問題点等について、活発な意見交換が行われました。農研機構東北農研では、引き続き東北地域における飼料作物の生産性向上に向けた情報発信に努めていきます。

（畜産飼料作研究領域 下司雅也）

